

日本語の抄訳

(下記の中国語の原典の後に私の感想を述べた文を付した)

真道重明 2011/11/22

北京の金海湖で発見された人を食う奇怪な淡水魚

北京市平谷区に在る金海湖では、毎年多数の人が溺れて死亡する。最近、高官の子弟や友人が遊泳中に死亡し、驚くべき秘密が明らかとなった。体長が3メートル、頭は1メートルもある「人食い淡水魚」で驚くことにその腹の中から人間の骨が見付かった。

(画像 1)。

事件の影響が大きい為、平谷の現地役所は観光客の減少を恐れて、情報の公表を禁止したが、現場の人が携帯(ケータイ)を使って捕獲された「人食い魚」の経緯を撮影して居た。

現在、景勝地の南湖は別の同類魚の棲息の可能性を恐れ、水中に入ることを厳禁して居る。

(問題の) 事情は以下のようなものである。当時、高官の子弟と友人等4人は遊覧船を備って、皆は水に入り泳いだ。だが高官の子弟の一人が沈んで浮上しないので他の3人は沈んだ者が何時までも浮上しないので直ちに警報を出した！また漁撈会社にも依頼しが屍体を探し出せなかった。一週間をヤヤ過ぎた時、屍体が浮き上がったが、その屍体の首の様子は非常に悲惨なものであった。

此の状況を見て、高官の父母は事情如何を問わず事態の真相を調べるよう命令を下し、公安(警察)も事件として取り上げた。

国家安全局の調査により、水庫(ダム)で最近発生している人骨の場所と溺死して沈んだ高官の子弟の地点とは異なっており、分析の結果、以前に数十人が溺死した事故は「水中に怪物が居り、大多数の溺死者は此の怪物により水中で犯された事件」と見当を付け、人員を派遣して踏査した。

その結果、巨大な食人魚の痕跡が見付かった。非常に深いので網を入れて捕獲

することは容易ではない。そこで冷凍した鶏を餌にして誘う事にした。怪魚は大変狡猾であるため、最後策略として誰も水に入って水面を驚かせない様にし、餌の投入を禁止して飢餓作戦と云う良策を取った。活鶏も併用したところ、遂に網に罹り岸辺に引き揚げられた。

(画像 2-4)

総じて云えば、此れらの大きなダムなどの在る所では泳がない事だ。景勝地の南湖などには行かない方がよい。誰も其処にこの種の怪物が居るかどうかわかるものは居ないのだから。

(末尾に和文の真道のコメントを書いた)

(原典、中国文-簡体字) 2011/11/09

北京平谷金海湖出事了

北京市平谷区金海湖，每年都有好几个人莫明溺水死亡。到最近有个高官的子弟与朋友一起到水库游水溺死亡，才发现惊天秘密！

竟然是一条有三米多长，头有一米多宽的吃人湖鳊！宰割湖鳊后，惊人的发现：在其肚中竟然有人的骸骨！



由于事件影响大，平谷当地政府怕影响当地的旅游，下令封锁消息，但却有现场的人用手机偷拍的到捕获的吃人鱼！

现在南湖已经严禁有人下水，为恐会有另一条同类的塘虱鱼在水中！

事情是这样的，当时是高官的子弟和朋友等四个人租了游船，同时一并下水的，但高官的子弟就一下子沉下水去，朋友就在隔壁拉都拉不住就沉了下去，另外三人见高官子弟好久都没有浮上来，立刻报警！并派了打捞公司也找不到尸体。经一个多星期后，尸体终浮上水，但

其尸首就呈现万分惊恐的死状。

见到如此情况，身为高官的父母下令无论如何，都要彻查知道事情的真相！在当地公安就成了大案。

经国家安全局立案调查，发觉在水库有最近发现骸骨的地方与溺水人沉下去的地点不同，经过分析，以前有几十人溺水死亡，估计水下有怪物，且大多数是此怪物在水下犯的案。派人下水去调查。就发现了巨大的吃人鱼的踪迹。但因为水库太深，一时间难以下网围捕，难几经组织方案，决定用整只冻鸡作为鱼饵来诱捕！

但该鱼十分狡猾，最后一武警献出良策，封锁水库，不准任何人下水惊动水面，不准投放任何食物在水中，同时改用活鸡下水，吃人鱼经不住一番饥饿，终于被活鸡吸引，浮出水面吸吃活鸡，在旁守候的武警见到水中有异样，及时向水中发枪，吃人鱼有几处正中要害，在水面不断挣扎，武警及时撒网收网，拖上岸边看





BBS.YINSHA.COM



挺吓人的，所以说各位男士可不要以为自己永远都是幸运儿，不会遇到这种倒霉的事，总而言之就是不要去那些大水库之类的地方游泳，南湖一定不要去了，谁知那里有没有这种怪物

(完)

(画像の数枚は省略した)

真道重明のコメント

私の乏しい知識では、「人を襲い、その首を噛みきる、巨大な淡水魚」は見たことも聞いたこともない。

尤も、南米のアマゾン河に棲息する「ピラニアの類」の中には、河に入った牛馬や人を、数百尾の大群をなし、その鋭い歯で襲うと聞いているが、巨大魚ではなく体長は数十センチぐらい。

しかし、此処で述べる魚は、画像から見て海産の巨大な魚の「ジンベイザメ」に似ているようにも思うが、この魚は海にしか居らず、おまけに食べるのは小さなプランクトンである。

また、巨大な淡水魚に「メコンオオナマズ」があり、時として小さな牛ぐらいの大きさに達するが、1980年代にタイ国の国立カセサート農業大学で人工飼育に成功、私も飼育中のものを見た。美味なため高価な魚であるが、メコン河の天然魚は捕獲の対象にはなるが、人を襲うことはない。

この種の話は画像を含めて総てが「虚偽の捏造」で、人を驚かせる愉快犯？である可能性もある。例えば、タイ国の新聞に「長蛇（竜）の一種である架空の生物プリアナーの卵を発見！」など毎年一・二度は出る。数日後作り話だったことが判明する。

若し、此処で述べた事件は、作り話とすれば少し手が込んでいるように思われる。淡水魚に詳しい方のご意見が欲しいものである。

----END----